

看取りの後、“悔い”のないお別れをするために

介護専門職の総合情報誌

おはよう21

11
November
2015

看取り後のケアを考える
の作法

“お見送り”

特集



新連載スタート!

現場で折れずに成長するための
グレさん相談室 杉本浩司

ゼロから始めよう はじめての介護技術 廣瀬圭子

手軽にできる セルフ整体 三枝加奈

おはようインタビュー

木村光希さん（納棺士、おくりびとアカデミー代表取締役）

鎌田實の△な介護のすすめ

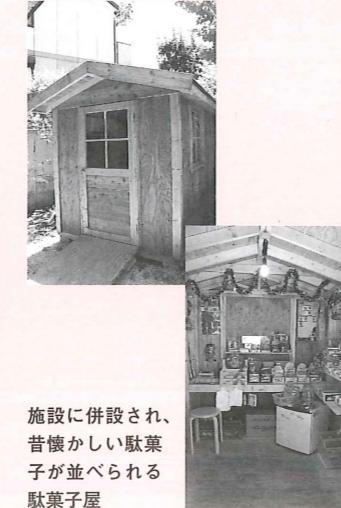
対談 北原佐和子さん



実際のお見送りの様子



施設に併設され、昔懐かしい駄菓子が並べられる駄菓子屋



お別れの会が当たり前の風景に

多くの高齢者施設では「死」がタブー視され、亡くなる方がいても、裏口からそつと遺体を運び出すような雰囲気があります。入居者だけでなく、スタッフもまた、「あの人、知らないうちにいなくなつたね」と、もやもやした思いを抱えてしまいます。

それは違うのではないかということが下河原さんたちの考え方です。本人はもちろん家族に対しても、きちんと最期について考えてもらいたい、どのように死にたいのか、あるいは、どのように死なせたいのかを問い合わせていくべきだというのです。

てもらいます。

初めての看取りの際には、お別れ会を催すといったお見送りの計画はありませんでした。その後、同じように「ここで死にたい」という方が何人か出でます。すると、職員、

入居者のどちらからもなく「お別れ会をしたら」という話が出てきました。親しくしていた入居者には、どうしても別れを惜しみたいという方もいたのです。

まずは、亡くなつた方の部屋でお別れ会をするようになりました。部屋に家族、職員、親しかった入居者がやつて来て、献花をし

たり、言葉をかけたりしました。やがて入居者の参加が多くなつたため、1階の広いスペースでお別れ会を催すようになりまし

た。

入居者の看取り、お見送りをするようになつてから、銀木犀は職員の定着率が上がつたそうです。入居者に最期までかかわることで、仕事のやりがいを強く感じてくれるようになつたからではないかと松丸さんは思っています。

もう一つ大切なのは、お見送りの後の職員の対応です。悔いが残りがちで、「できなかつたこと」を思い返してしまいます。

「亡くなつた後、『お偲びのカンファレンス』と呼ぶ会議を開くんです。私や職員、

ケアマネジャーなどが集まつて、ケアプラン

がきちんと遂行できたかどうか、満足いく生活を送つてもらえたかどうかを話し合

います。その際、現在や将来に反映させ

ます。私たちが問われるのは、今の入居者とどう向き合い、行動するかですから」

銀木犀の建物のすぐ脇に、銀木犀の入居

者が運営する駄菓子屋さんがあります。昔懐かしい駄菓子が並べられ、お客様は近くに住む子どもたちが訪れます。「ここで仲良くなつたおばあちゃんが亡くなつたいたら、子どもたちも多くのことを感じ取ると思うんです」(下河原さん)。

ふつと、おばあちゃんの顔を思い浮かべるかもしれません。それもまた、一つのお見送りといえるのではないでしようか。

3つの介護現場の実践からお見送りのあり方を考えます。
取材・文●山村基毅

「看取り」が進んできた介護現場にあって、「お見送り」の意義を考え、積極的に実施する施設も増えてきました。

所長の松丸晃一郎さん



①「看取り」の文化を取り戻す

——サービス付き高齢者向け住宅「銀木犀〈鎌ヶ谷〉」(千葉県鎌ヶ谷市)

一人の「死の作法」が、
施設を動かした

えたわけではありません。

「初めに『ここで最期を迎えた』とおつしやつたのは、ある76歳の女性でした」

彼女は乳がんを患い、余命3か月と診断されました。入居後すぐ「病院では死にたくない」と要望されました。当時の銀木犀は看取りに対応していません。下河原さんは「困ります」と答えました。

すると、彼女は「あなたたちに、人の死に方を教えてあげますよ」と言つたのです。実は、彼女は長く看護師として働き、「病院は人を治療する場であつて、死ぬ場ではない」との信念をもつっていました。

それならばと、在宅療養支援診療所の医師や訪問看護師の協力を仰ぎ、看取りまでをお世話することにしました。

彼女が住宅で亡くなつたのは、77歳の喜寿のお祝いをした直後でした。彼女の「死の作法」は下河原さんや職員らに強烈な印象を与えました。以後、医師や看護師と連携しながら、看取り、さらにはお見送りを行

最後までかかわることの充実感

行うようになったのです。

看取りについて「初めは『怖い』という思いがありました」と語るのは、銀木犀〈鎌ヶ谷〉の所長、松丸晃一郎さんです。

高齢者住宅では、職員自身が他人の死の当事者になります。自らがお世話をしている時間帯に亡くなつたらどうしよう、嫌でも不安は高まつていきます。

「とにかく、私も含めてスタッフで勉強しました。病院の現場を観察したり、看取りやお見送りについて勉強したり……」

銀木犀で最期を迎えたと希望する場合、在宅療養支援診療所と契約する必要があります。ここは自宅ではありませんが、少なくとも住処です。そのため、本人にも普段の生活では、できることはすべて自分でし

所長の松丸晃一郎さん



現場から学ぶ『お見送り』の力タチ

3